第5期とつかハートプラン

(戸塚区地域福祉保健計画)

計画期間:令和8(2026)年度~令和12(2030)年度

誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現を目指して

素案



令和7年3月 とつかハートプラン策定・推進委員会 戸塚区役所 社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会 戸塚スタイルをまちぐるみで!

みんなの声・地域の力・とりまく状況

戸塚スタイルを

8050 問題

社福法人・ 各種事業所… 戸塚のみんなが 地域の力

企業も地域貢献

したい!

でも何をしたら・

必要な人へ 必要な支援や サービスを 届けたい

複合化・ 複雑化した 生活課題

ダブルケア

LGBTQ という 言葉は聞いたこと あるけれど…

様々な人たちで

成り立つ地域

認知症になっても

安心でいられる

地域にしたい

認知症になっても

できることは

たくさんある!

障害のある人や、

その生活について、

もっと理解が必要

「障害者」「LGBTQ」と くくってしまうのではなく、 正しい理解のもと、 あたり前に生活できる地域に

外国につながる

方たちも安心できる

地域にしたい

地域でなにか できないか

よりよいまち" への思い

不登校ひきこもり

連綿と積み重ね られてきた自治会 町内会・地区社協 の活動

住民や団体の思い から生まれた様々な インフォーマルの取組

学校と 連携したい!

超高齢化 人口減少

「高齢者」と いっても、 その姿はいろいろ

要介護者の増加

お互いさまの関係 (支える側にも支え られる側にも) を広げたい

こどもも主役! もっと声を聴く 機会をつくって いきたい

つなげ先が わからない

地域の支え手 (担い手) がなかなか 見つからない… 地域で展開される様々な取組や、 活動する人・団体の情報を 発信・共有できる仕組みをもっと。

ヤングケアラー

多様な存在について、様々な面から 知りあい、認めあい、尊重しあえる 地域にするために。

受け手の立場に立った 仕組みづくり、情報提供を。

の みんなの力を合わせて

連携したい相手が、 どんな望みを持っているかを わかりあい一歩前へ。

> 誰もが参加できる場所、 ほっとできる場所、 力を発揮できる機会をもっと。

すべての人・団体・法人が、 お互いを知りあい、 認めあい、尊重しあい これまでの枠を飛び越えて 力を合わせる時がきた!

戸塚スタイル

「おもいあい」と「枠にとらわれない」をキーワードに、 3つのアクションを進めよう











第5期とつかハートプラン(戸塚区地域福祉保健計画)素案 目次

第5期と	つかハートプラン素案		
戸塚スタ	マイルをまちぐるみで!	. 2	
目次		. 5	
第1章	第5期計画の策定にあたって		
	1 とつかハートプラン(戸塚区地域福祉保健計画)とは	. 6	
	2 第5期計画を構成する要素	7	
	3 第5期計画の全体像	٠. ٤	
第2章	区計画		
	取組ページの見方	10	
	1: おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている	12	
	1-1 みんなの意見12		
	1-2 取組事例 ······14		
	2: その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている	16	
	2-1 みんなの意見16		
	2-2 取組事例 ······18		
	3: 困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている	20	
	3-1 みんなの意見20		
	3-2 取組事例		
	4: 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている	24	
	4-1 みんなの意見24		
	4-2 取組事例		
	5: 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている	28	
	5-1 みんなの意見28		
	5-2 取組事例		
	6: 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている	32	
	6-1 みんなの意見32		
⇔o≠	6-2 取組事例 ······34		
第3章	地区別計画 地区別計画(予告)····································	26	
公 4 立		30	
第4章	計画の進め方 1 推進体制 ····································	20	
	2 区計画と地区別計画の関係		
	区役所・区社協・地域ケアプラザの役割		
参考	ま と (目的)		
少与	第4期計画の振り返り ······		
	新4期計画の振り返り ···································		
	拠計ノーアルンガルア外位	44	

第1章 第5期計画の策定にあたって

1 とつかハートプラン(戸塚区地域福祉保健計画)とは

戸塚区で暮らし、学び、働くすべての人が協力しながら進める「戸塚区地域福祉保健計画」の愛称です。 とつかハートプラン(以下、「ハートプラン」という。)では、「誰もが安心して心豊かに暮らすことのでき る地域社会の実現」を基本理念として、区民・地域団体・関係機関・事業者の皆様と区役所、戸塚区社 会福祉協議会(以下、「区社協」という。)、地域ケアプラザ等の協働により、支えあい、助けあう地域社 会の実現を目指します。

(1) 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、社会福祉法に基づいた、「<u>福祉サービスを必要</u>とする人や<u>生活課題を抱え</u>る人が、 その人らしく生活し社会に参加できるような地域づくりを目指す計画」であり、その推進を通して、「地域 共生社会」の実現を目指します。

(2) 横浜市の特徴

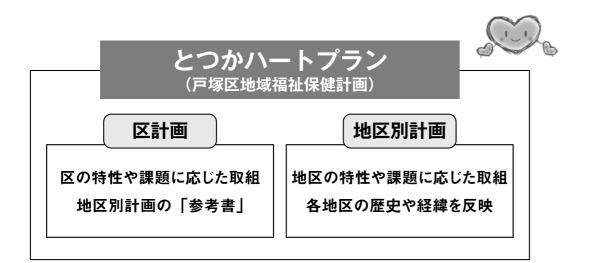
法的には「地域福祉計画」ですが、横浜市は独自に「地域福祉保健計画」として、健康に関することや 予防的観点を盛り込んでいます。

そのため、現に<u>福祉サービスを必要</u>としていたり、<u>生活課題を抱え</u>ていない方も含めて、誰もが日常的なつながりを基礎としながら安心で心豊かに暮らしていけるまちづくりを目指しているところに特徴があります。また、横浜市では、市・区社会福祉協議会が定めていた「市・区地域福祉活動計画」と一本化して策定することにより、行政と市・区社会福祉協議会の取組を一体的に推進しています。

(3) 計画の構成

横浜市の計画のもう一つの特徴は、市・区・地区と計画が3層構造になっていることで、地域住民の主体的な参画を図っている点です。

ハートプランは、この三層構造のうち、「区計画」と「地区別計画(連合町内会自治会・地区社会福祉協議会単位)」で構成されています。



2 第5期計画を構成する要素

【基本理念】

誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現 【基本目標】

〈支えあいと助けあいのあるまち〉 〈みんながふれあう場のあるまち〉 〈安全・安心、人にやさしいまち〉 〈いつまでも元気で健やかに暮らせるまち〉

第5期計画では、基本理念冒頭の「誰もが」を広げ、実現するための取組に力を入れていきます。

「誰もが」の実現なしでは、「安心」や「心豊か」という要素も不十分なものになってしまいます。誰もが地域社会の主役としてその人らしく暮らしていけるよう、年齢の違い、多様な性のあり方、障害の有無、国籍や人種、出身地の違いなど、その違いを認めあい、尊重しあえるまちを目指して、取組を進めます。

【第5期計画の取組】 戸塚スタイルをまちぐるみで!

- 「おもいあい」と「枠にとらわれない」を形にするまちづくり~〈おもいあい〉
- ①地域社会を構成するあらゆる存在を認めあい、尊重しあえる土壌づくりを進めること、②受け 手の立場に立った情報発信、支援・サービスの仕組みづくりを進めること、③相手を知り、尊重し あうことで団体・機関・事業者が連携・協力関係の強化を図ること、を表現しています。

〈枠にとらわれない〉

超高齢化や人口減少、複雑化・複合化する生活課題など、社会情勢や私たちを取り巻く環境が厳しさを増す中で、これまでの枠を取り払い、様々な人、団体、部署、事業者などが手をとりあって力を合わせることが求められています。

5年後に目指すまちの姿 (振り返りのポイント)

- 1) おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている
- 2) その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている
- 3) 困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている
- 4) 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている
- 5) 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている
- 6) 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている

3つのアクション

〈知る〉〈つながる〉〈組む〉

アクションの主体は、戸塚区に関わるすべての人・法人(機関・事業者等)です。

7

6 第1章 第5期計画策定にあたって

3 第5期計画の全体像

「基本理念」 ~計画の推進を通じて目指す目標像~

誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる 地域社会の実現

【基本目標】

支えあいと 助けあいの あるまち

みんなが ふれあう場の あるまち

安全•安心、 人にやさしい まち

いつまでも 元気で健やかに 暮らせるまち

「第5期計画の取組」

「5年後に目指すまちの姿」 (振り返りポイント)



おたがいの違いを わかりあい認めあい 尊重しあえる まちになっている



その人らしい つながりの中で いきいきと暮らせる まちになっている



困っている人に 気づき支えつなげる ことのできる まちになっている



誰もが安心して 暮らせる仕組みや 場が充実した まちになっている



「戸塚スタイル」をまちぐるみで!

戸塚区に関わる すべての人・団体・ 法人が力をあわせる まちになっている



防災・防犯・健康 危機管理について みんなで備える まちになっている

「5年間で進める3つのアクション











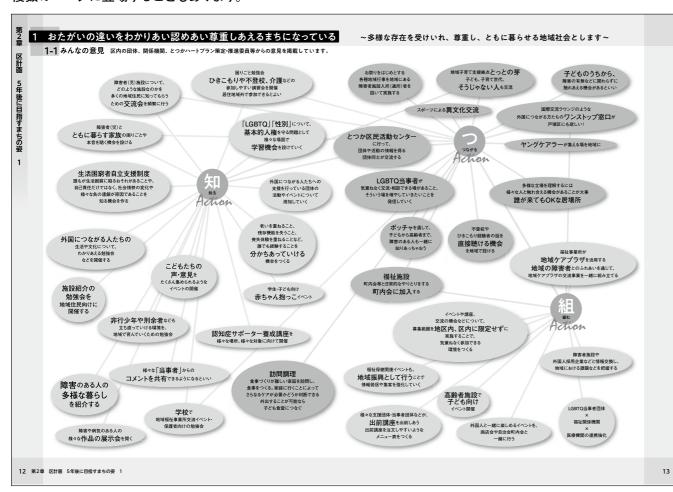
「おもいあい」・「枠にとらわれない」 「戸塚スタイル」 3 つのアクション

第2章 区計画

● 取組ページの見方

前ページでは「戸塚スタイル」をまちぐるみで広げていくことで、5年後に目指すまちの姿を紹介しました。 ここからは、そのまちの姿に近づけるために、5年間で進める3つのアクション〈知る・つながる・組む〉 についてまとめています。

1つの取組でも、複数の効果を生み出すものもあります。そのため、同じような取組(アイデア)が、複数のページに登場することもあります。



2 1 おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている 1-2 取組事例 写真・図 写真・図 写真・図 意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定 意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定 事例の解説、インタビュー、座談会などを掲載予定 写真・図 意見募集を受けて、前ページ の各文官が確定された後に、 3つのアクションごとに事例 を掲載する予定 意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例 14 第2章 区計画

3つのアクションから伸びる一つひとつの取組 (アイデア) は、戸塚区で暮らす・学ぶ・働く様々な当事者、各種団体や関係機関のみなさまからお聞きした内容や、とつかハートプラン策定・推進委員会でのワーキングで出された内容をまとめたものです。すでに行っている取組のほか、あったらいいなと思う取組やアイデアもあげられています。

ご自身や、所属する団体・事業所・機関・施設として、どんな取組や関わり方ができるのかを、考えたり話しあったりする際のヒントとしてご活用ください。

新しい取組を始めることは大変ですが、今ある取組をさらにみがいたり、ちょっとした個人の行動を変え てみるきっかけにもなればと思います。 ページ左側は、前ページに掲載した内容から取組事例を紹介します。写真も合わせて掲載する予定です。ページ右側は、ページ左側で紹介した取組事例の詳細や経緯、また、インタビューや座談会を掲載する予定です。

10 第2章 区計画 11

おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている

~多様な存在を受けいれ、尊重し、ともに暮らせる地域社会とします~

1-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、とつかハートプラン策定・推進委員等からの意見を掲載しています。

障害者(児)施設について、 どのような施設なのかを 多くの地域住民に知ってもらう ための交流会を頻繁に行う

困りごと勉強会 ひきこもりや不登校、介護などの 参加しやすい講習会を開催 居住地域外で参加できるとよい

お祭りをはじめとする 各種地域行事を地域にある 障害者施設入所(通所)者を 招いて実施する

地域子育で支援拠点とっとの芽 子ども、子育て世代、 そうじゃない人も交流

子どものうちから、 障害の有無などに関わらずに 触れあえる機会があるといい

障害者(児)と ともに暮らす家族の困りごとや 本音を聴く機会を設ける

「LGBTQ | 「性別 | について、 基本的人権を守る問題として 様々な場面で 学習機会を設けていく

国際交流ラウンジのような スポーツによる異文化交流 外国につながる方たちのワンストップ窓口が 戸塚区にも欲しい!

とつか区民活動センター に行って、

団体や活動の情報を得る 団体同士が交流する

ヤングケアラーが集える場を地域に

生活困窮者自立支援制度

誰もが生活困窮に陥るおそれがあることや、 自己責任だけではなく、社会情勢の変化や 様々な負の連鎖が原因であることを 知る機会を作る

知 知る Herron

外国につながる人たちへの 支援を行っている団体の 活動やイベントについて 周知していく

> ボッチャを通して、 子どもから高齢者まで、 障害のある人も一緒に 知りあっちゃおう

福祉保健関連イベントも、

地域振興として行うことで

情報発信や集客を強化していく

様々な支援団体・当事者団体などが、

出前講座を出前しあう

出前講座を注文しやすいような

メニュー表をつくる

LGBTQ当事者が

気兼ねなく交流・相談できる場があること、

そういう場を増やしていきたいことを

発信していく

不登校や ひきこもり経験者の話を 直接聴ける機会 を地域で設ける

つながる

Helion

多様な立場を理解するには 様々な人と触れ合える機会があることが大事 誰が来てもOKな居場所

外国につながる人たちの 生活や文化について、 わかりあえる勉強会 などを開催する

> 声·意見を たくさん集められるような イベントの開催

喪失体験を重ねることなど、 誰でも経験することを 分かちあっていける 機会をつくる

老いを重ねること、

残存機能を失うこと、

学生・子ども向け 赤ちゃん抱っこイベント

こどもたちの

福祉施設 町内会等と日常的なやりとりをする 町内会に加入する

福祉事業所が 地域ケアプラザを活用する 地域の障害者とのふれあいを通じて、 地域ケアプラザの交流事業を一緒に組み立てる

施設紹介の 勉強会を 地域住民向けに 開催する

障害のある人の

多様な暮らし

を紹介する

障害や病気のある人の

様々な作品の展示会を開く

非行少年や刑余者なども 立ち直っていける環境を、 地域で育んでいくための勉強会

認知症サポーター養成講座を 様々な場所、様々な対象に向けて開催

イベントや講座、 交流の機会などについて、 募集範囲を地区内、区内に限定せずに

実施することで、 気兼ねなく参加できる 環境をつくる

組 組む Helion

様々な「当事者」からの コメントを共有できるようになるといい

> 学校で 地域福祉事業所交流イベント・

訪問調理 食事づくりが難しい家庭を訪問し、 食事をつくる。家庭に行くことによって さらなるケアが必要かどうか判断できる 外出することが可能なら

子ども食堂につなぐ

障害者施設や 外国人採用企業などと情報交換し、 地域における課題などを把握する

高齢者施設で 子ども向け イベント開催

> 外国人と一緒に楽しめるイベントを、 商店会や自治会町内会と 一緒に行う

LGBTQ当事者団体 福祉関係機関 医療機関の連携強化

保護者向けの勉強会

1 おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている

1-2 取組事例



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例 を掲載する予定

写真・図

写真・図

HCMOM を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例

写真・図

写真・図

写真・図

2 その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている

~日常的な交流・つながり・健康づくりを促進し、その人らしく健やかに暮らせる地域を目指します~

2-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、とつかハートプラン策定・推進委員等からの意見を掲載しています。

多世代交流やふれあいの機会を増やす 子どもだから、障害があるから に関係なく自分が居心地のいい場所を 自由に選べる みんな一緒の居場所

子どもから高齢者の誰もが 気軽に集まれる場所づくり

地域の 名所・おさんぽマップ づくり

若い世代と高齢者の意思疎涌

だがしや楽校

小さな規模であちこちで

参加者(対象)を選ばない

居場所が徒歩圏内にある

活動団体の見える化をおこない、 周知する機会を増やす

知る touron 隣接する他地区と 地域活動について 情報交換会 を実施する

障害者(児)とともに暮らす家族の 困りごと本音を聞く機会を設ける

> 活動などに使える 部屋やスペースを一覧にする

つながりたいマーク

不登校児童、生徒が 集う施設をつくりたい

衣食住など 生きるための活動は つながりやすい

ボッチャキャラバン

子どもたちが様々な場所で

高齢者や障害者に指導し楽しむ

夜ボラ 夜サロン "ずらす"ことで可能性を幅広く

地域のコミュニティカフェ

高齢者の趣味をいかして 竹馬、竹とんぼ作り、 昔遊びを伝授

家で 一緒にご飯を食べる キャンペーン

多世代交流できる スポーツイベント

つながる Helion

スポーツ茶話会 簡単ストレッチ、体操、筋トレ×おしゃべり

プレイパーク をふやす 子どもたちが思い切り遊ぶ環境 をふやす

外遊び事業において 親子が学びあう経験を

どの世代も関心のある 健康づくりを 中心に交流

> みんなであいさつを 交わす区宣言発令 まずはあいさつ、慣れたら、 会話ができるようになるといい

非まじめ清掃、 非まじめお祭り 気軽に参加で知り合いに

地域の名所を巡る

イベントの開催

誰もが気軽に集まれる場所として、 福祉施設が場所を提供

OB・OGのスキルを 情報としてプールし 必要とする団体が活用

区をまたいだ活動の場 (ケアプラザ共催の行事が増えることで参加しやすい)

高齢者食事会と

元気づくりステーションの同時開催

(食事と健康のコラボレーション)

社会福祉法人や事務所が 仕事として地域に人を出す

散歩のついでに 一緒に買い物、 時間が空いたから一緒に (ライドシェアやスキマバイトを参考に)

学生と地域が関わる イベントを増やしていく

組む Helion 学生のボランティア活動

お祭りをはじめとする 各種地域行事に 地域にある障害者施設 入所(通所)者を招いて実施

出前スポーツ 公共施設に足を運びにくい人を対象に 町内会館などで 軽スポーツを楽しむ

> 自分の得意なことをいかし、 居場所としての食堂を分業して運営 (料理・洗い物・お金管理・ピアノを弾く等)

> > エンジョイ!スマホタイム

スマホのスキルをゆっくり

身に着けていきながら

情報を得たり知り合いを増やし

楽しみながら交流

地域のつどいの場のプログラムに 体操等健康づくりに関する要素を取り込む

遊べる駄菓子屋を 町内ごとにつくる

ヘルスメイト 町内会 とつながって

商店会主催の 健康つながる プロジェクト

商業施設、金融機関など 大勢の人が行きかう場所で 地域の活動イベントの 広報スペースを設ける

16 第2章 区計画

2 その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている

2-2 取組事例



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例 を掲載する予定

写真・図

写真・図

HCMOM を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例

写真・図

写真・図

写真・図

困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている

~困りごとを抱えた人に気づくことができる、さらに支援に繋げていけるような地域を目指します~

3-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、とつかハートプラン策定・推進委員等からの意見を掲載しています。

地域で暮らす 様々な存在

について知り、 わかりあうための取組を、 自治会町内会や地域の集まり などで進める

図にしてそれぞれの役割を紹介)

長期休暇中や放課後の 小中学生を見守る「ゆるやかな目」を 地域のみんなで持っていたい

広域で行う

町内会と社会福祉法人・施設が 協働して買い物や送迎に取り組む

知る

地域の保育園児、小中学生、高校生、 声をかけやすくするために 「つながりたい |マークをつける

社会福祉法人が 地域の相談窓口となって、 必要な支援・サービスを提供できる 機関につないでいる 目印は「こころん」

普段から あいさつ 近所の人を知っておく 知っておいてもらう

chon 福祉サービスや支援に関する情報を、 SNSなどを活用して 20代、30代の世代をターゲット として発信する

地域の支えあいの仕組みを知る

(商店街、社協、NPO、施設、市民団体等、

福祉保健専門機関が それぞれ持っている情報や 分析内容を、 地域住民と共有 できる仕組みをつくる

高齢者施設において

大学生の受け入れを行い

ふれあい、研修の機会をもつ

KE 買い物送迎ボランティアを、 一つの自治会町内会だけでなく tenon

介護が必要になるのは まだ先と思っている現役世代向けの 福祉サービスや支援に関する 勉強会の開催

児童虐待防止、 こどもの権利擁護 に関する啓発活動によって、 地域に正しい知識や理解が深まり、 課題を抱えた子育て世代に 気づくことができる

社会福祉法人や事業所が 仕事として地域に人を出す

買い物送迎ボランティアが 一つの自治会や町内会を超えて 広域に活動することを区社協が調整

みまもりネット の充実により、 みまもりの輪が広がる

地域活動における 個人情報の取扱い について 専門家の話を聞く機会を設ける

ハートプラン冊子を使って、 住民団体や施設・事業者が それぞれ何をできるか話し合う

各自治会町内会、連合、区、 それぞれの単位を超えて 具体的な地域課題や取組について 話し合う機会を充実させていく

保健活動推進員や ヘルスメイトなど、 地域で活動する様々な存在を知りあう

地域のイベントに参加する あいさつができていると 参加しづらい、ためらっている人を 誘うことができる

あいさつ運動を 地域連携チームの活動により、 戸塚区全体で進める 関係機関が持つ個別支援の情報などを 共有し地域課題として把握することで、 地域支援につなげる

だがしや楽校を 小さな規模であちこちで

中学生、高校生が つくる食堂の開催

さらなるケアが必要かどうか判断できる。 外出することが可能なら つながる 子ども食堂につなぐ Helian サロンに来られない人に向けて、 少人数でごはんを食べる

> どの活動団体も、 地域ケアプラザ、区役所、区社協、とっとの芽、 区民活動センター、基幹相談支援センターなどの 相談先の情報(場所や連絡先)を もっていていつでも提供できるようにしておく

地域の困りごと総選挙

こどもたちに地域課題を リストアップしてもらい 解決課題を選挙で決める

祭りにとらわれず 一斉清掃など老若男女が 定期的に参加できるものがあると良い

ちょっと一杯お茶を飲める場所を 地域の中につくる

訪問調理

食事作りが難しい家庭を訪問し 食事をつくる家庭にいくことによって

> こどもたちの 長期休みの時の居場所づくり (勉強、遊び、昼食提供)

20 第2章 区計画

3 困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている

3-2 取組事例



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例 を掲載する予定

写真・図

写真・図

HCMOM を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例

写真・図

写真・図

写真・図

誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている

~支援やサービス、情報の充実、多様な人が安心して暮らせる仕組みを強化します~

4-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、とつかハートプラン策定・推進委員等からの意見を掲載しています。

困りごとから索引できる 福祉サービスや支援方法に 関する手引きを作成する

認知症サポーター養成講座

生活困窮者自立支援制度

の周知活動を通して、 「実は身近に様々な困りごとを 抱えている人がいるかもしれない と意識できる機会をつくる

高齢者施設紹介の勉強会を 地域住民向けに開催

手引きをもとにした 講習会を開催する

> 様々な居場所や取組があることを 情報共有·周知 する仕組みをつくる

知る

Hetron

わかりあうための取組を、 自治会町内会や 地域の集まりなどで進める

について知り、

地域で暮らす様々な存在

成年後見制度の 普及啓発

地域で 市民後見人 を養成する

成年後見サポートネット の開催

> エンディングノート の普及啓発

こども食堂・地域食堂

こどものうちから 社会保障制度や福祉サービスについて 学ぶ機会があるとよい

認知症カフェ

社福法人や各種事業所、 学生、小中高生、地域の人、 いろんなみんなでつくる食堂

無料塾

認知症の方向けの

ボランティアや求人情報

つながる chan

LGBTQ当事者が、 気兼ねなく交流し 相談できる居場所をつくる

地域子育て支援拠点 とっとの芽が実施する こどもたちが、 ひろば(出張ひろば)や外遊び支援事業において 思い切り自由に遊べる 親子が遊びあい、 環境を増やす 学び合う経験を支援している

> こどもたちの 長期休みの時の居場所づくり 勉強したり、遊んだり、 昼食の提供ができるとよい

コンビニやファミレスに行き、 当事者同士で公園で 交流することができる

障害者が、あたり前に

地域全体の「ゆるい支援 | があるまちにしたい

> 地域ケアプラザと 地域の福祉事業所の 連携強化

学生と地域課題や その解決策について考えてみたい

子どもたちが、 教員の引率なしにできる ボランティアの機会

地域の

福祉施設内

スペースを利用

して居場所づくり

子育てサポート連絡会 で児童虐待対応に関わる 地域の関係機関と 適切な支援につながるよう 情報共有を行っている

ヤングケアラー が集える場

> 介護者や養育者 などが交流し、気兼ねなく話ができる場

不登校児童、生徒に限らず その場、その時間に行くと 自由に過ごすことができる場があると良い 一歩踏み出すきっかけ となる場があるといい

高齢者虐待防止事業連絡会・

事例検討会の開催

の児童生徒の居場所づくりが急務 保健室に行ける子はまだ良い 両親が共働きやひとり親世帯だと 家にひとりでいなければならない 気楽な居場所で迎えて

あげられればいいなと思う

障害のある方向けの

小中高牛が宿題や試験勉強ができる場所が 見守りつきで身近にたくさんある できれば大人、学生など一緒に考えてくれる人がいる

移動販売、移動手段の充実

未来づくりプロジェクト を活用して、 地域のニーズと企業などの 事業資源を結びつける

Herron

地域に存在する 社会福祉法人が窓口 となって困りごとを受け止め、

関係機関へつなぐ

保健活動推進員や ヘルスメイト など地域の活動者が、

それぞれの得意を出し合って 協働して地域食堂やイベントを運営

みんな一緒の居場所にする 子どもだから、障害があるから関係なく、 自分が居心地のいい場所を 自由に自分で選べるまちが理想

不登校

ボランティア情報

4 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている

4-2 取組事例



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例 を掲載する予定

写真・図

写真・図

HCMOM を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例

写真・図

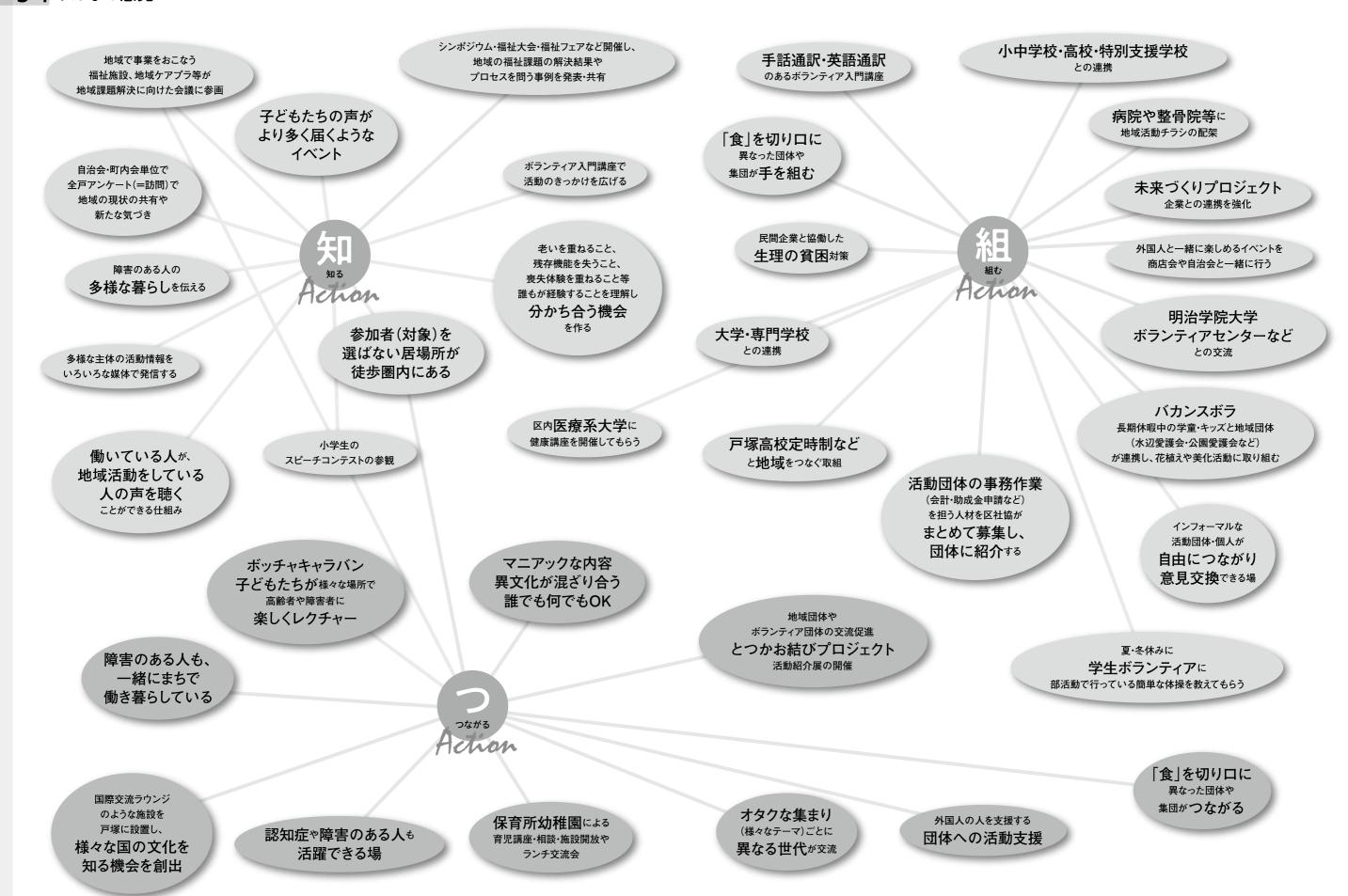
写真・図

写真・図

戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている

~さまざまな人や団体・法人が、主体的に地域活動やまちづくりに関わる機会を拡大します~

5-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、とつかハートプラン策定・推進委員等からの意見を掲載しています。



5 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている

5-2 取組事例



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例 を掲載する予定

写真・図

写真・図

HCMOM を掲載する予定

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例

写真・図

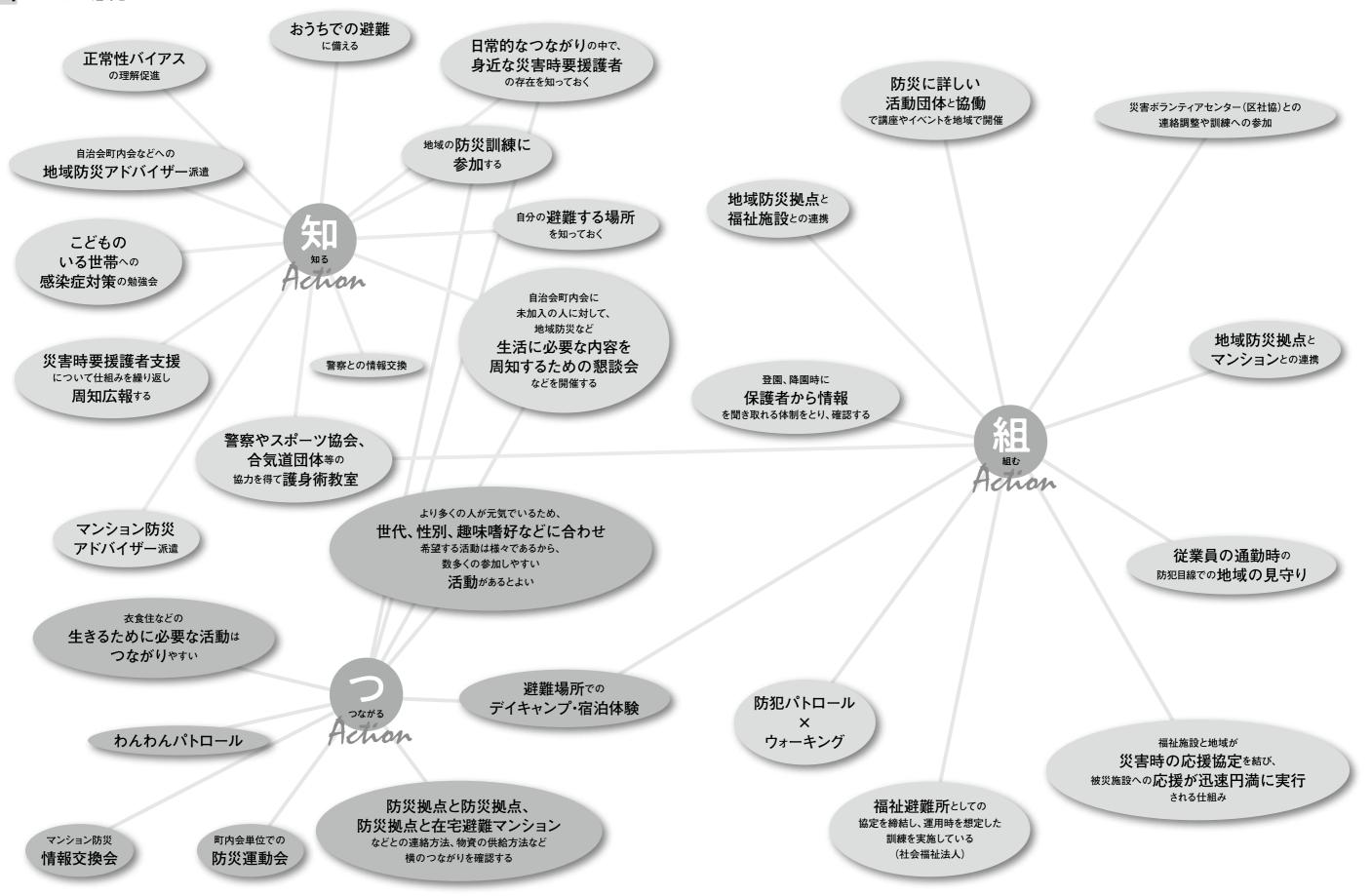
写真・図

写真・図

防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている

~防災・防犯・健康危機管理の仕組みや取組を強化し、安心して暮らせるまちを目指します~

6-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、とつかハートプラン策定・推進委員等からの意見を掲載しています。



32 第2章 区計画

6 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている

6-2 取組事例



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定



写真・図

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページの各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例を掲載する予定

写真・図

写真・図

意見募集を受けて、前ページ の各文言が確定された後に、 3つのアクションごとに事例 **HCMOM** を掲載する予定

写真・図

写真・図

写真・図



37 36 第3章 地区別計画

第4章 計画の進め方

1 推進体制

ハートプランを推進するのは、戸塚区に関わるすべての人・団体・法人(機関・事業者等)です。 それぞれの立場や役割などに応じて、「誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実 現」に向けて、「知る」「つながる」「組む」の3つのアクションに取り組んでいきましょう。



2 区計画と地区別計画の関係

区計画と地区別計画は、それぞれの営みの中で連動しながら支えあい補いあう関係です。

区計画にとって地区別計画は、取組の中身をよりきめ細やかにし、より効果的なものにしてくれる 存在です。公的なセーフティーネットも、連綿と続く地域での様々な活動やつながりがあってはじめ て、その網の目を細かくすることができるのです。

一方、地区別計画にとって区計画は、共通する課題や情勢に応じた取組として、参考となる存在です。 各地区の取組だけでは解決が難しい課題などについて、適切に支援やサービスにつながり、解決が図れるよう区域での仕組みを整えていきます。

区計画と地区別計画の関係を生かしていくにあたっては、区役所・区社協・地域ケアプラザの職員で構成される各地区ごとの地域連携チームがその役割を担っていきます。専門機関として把握している情報を共有して地域へ提供したり、住民が感じている地域課題を把握して区計画の営みの中で解決を図れるよう関係各所へつなぐなどの動きをしていきます。

3 区役所・区社協・地域ケアプラザの役割

区役所、区社協、地域ケアプラザが、専門機関としてそれぞれ福祉保健活動の中心を担いながら、計画 の事務局として様々な推進主体の連携強化・つながりの促進を図っていきます。

◆ 区役所

区役所は、地域福祉保健の総合的な第一線の機関として、区域全体を俯瞰しつつ下支えしていく 役割を担います。また、福祉保健に関わる部署のみならずすべての部署が、福祉保健課題に対応 するまちづくり・つながりづくりのために連携して取組を進めます。

- 地域の状況やニーズ、個別の支援を通じて把握した地域課題や潜在的な課題を、地域住民や 関係機関、事業者と共有し、課題解決に向けて連携・協働しながら取組を進めます。
- 地域において福祉保健への関心や理解が深まり、人と人とがつながることで、地域全体で支えあえるよう、支援します。
- 地域の中に存在するあらゆる主体が、地域の力として活躍し役割を果たしていけるよう仕組 みづくりや関係づくりを進めていきます。

◆ 区社協

区社協は「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」という活動理念のもと、地域住民や様々な団体・施設・関係機関等とともに福祉のまちづくりを進めます。

- 権利擁護・食支援などの個別サービス事業や戸塚区社協ふれあい助成金を通じて、困りごと を抱えている住民の支援や地域の福祉活動の推進に取り組みます。
- 子どもから大人まで全ての人を対象に、福祉教育やボランティア講座等を開催することで、 福祉に関する理解・啓発や福祉活動の担い手の裾野を広げます。
- 共同募金や善意銀行等の業務を通して、地域から寄付金品等をお預かりして、福祉施設や福祉活動団体等に配分を行い、地域福祉の推進に活かします。

◆ 地域ケアプラザ

地域ケアプラザは、地域の身近な福祉保健活動の拠点として、地域支援の中核的な役割を担います。具体的には、次のような役割を果たします。

- 世代や分野を問わず、様々な相談を受け止めることで地域の困りごとや住民の声を把握し、 各職種の専門性を生かしながら支援を行います。
- 自主事業の実施や福祉保健活動団体への活動の場の提供により、地域住民との顔の見える関係づくりやネットワークづくり、活動の担い手発掘を進めます。
- 構築した関係やネットワークを生かし、地域住民や団体と連携しながら地域の課題解決に取り組むことで、地域の中で見守り、支えあう仕組みづくりを進めます。

策定の趣旨(目的)

ハートプランの推進の主体は、住民、団体、関係機関、事業者、行政など、戸塚区に関わる全ての人 たちです。

分野を超えた幅広い主体が、ハートプランを通じて社会情勢や地域課題、当事者の声などを共有し、 併せて、当面の取組の方向性について指針を明らかにすることで、各々の役割に応じた取組を(ときには 手を取りあうことで)効果的に進めることができます。

(1) すべての人が主役となるために

私たちの暮らす地域は、多様な人々により構成されています。年齢の違い、多様な性別の違い、障害の有無、国籍や人種、出身地の違いなど、"違う者同士"が、地域を形づくっています。その中でただ一つだけ言えることは、誰もが大切な一人の人間であり、地域を形づくる主役であるということです。

誰もがその違いに関わらず認められ尊重されることは、よりよいまちづくりにおいて最も大切なポイントです。

ハートプランを通して、当事者の声を共有すること、お互いを知りあいわかりあえる機会を充実させていくことが求められています。

(2) 人口減少・超高齢社会への対応

戸塚区の人口は、2020年を起点とした推計では 2025年をピークとして減少する見込みでしたが、減少のスピードは予測を上回り、2021年をピークにすでに減少傾向にあります。さらに、構成比では 65歳以上人口の割合が高くなっていく一方、生産年齢人口(15~64歳)は減少していくと推定されています。こうした人口動態は、日々の生活や地域の営みにも様々な影響を与え、これまでに経験したことのない状況がやってくると言われています。

ハートプランを通して、地域を取り巻く状況の変化や具体的に起こりうる(起こっている)問題を 共有し、幅広い主体が地域課題として捉え、それぞれの役割を果たしていくことが求められています。

(3) 複合化・複雑化した生活課題への対応

近年では、80代の親がひきこもり状態にある50代の子の生活を支えるといったいわゆる「8050問題」や、親の介護と育児などが同時進行となる「ダブルケア」、本来大人が担うことが想定されている家族の介護やケア、家事などをこどもが日常的に行う「ヤングケアラー」の問題など、複数の分野にまたがる「複合化・複雑化した生活課題」を抱える人たちの存在が浮き彫りになっています。

これらの事象の多くは、個人の努力などでは解決できないことばかりです。個人や世帯単位での生活課題も、その背景も含めた地域課題として捉え、個々を取り巻く環境に変化を与えていく必要があります。

ハートプランを通して、事象の理解、幅広い主体による地域課題としての共有、必要な人に必要な 支援・情報が届く仕組みづくりが求められています。

(4) 様々な形で展開される"地域づくり""つながりづくり"

一方で地域の中では、住民の思いから生まれた青少年の社会参加の場の創出や支えあいの取組、つながりづくりやまちづくりのための各種団体の取組など、インフォーマルな活動が無数に展開されています。(こうした一つひとつの取組は、ハートプランの理念に通ずるものでありながら、ハートプランがなくても展開されるものとも言えます。)

ハートプランを通して、活動する地域や領域が異なるこれらの取組について、情報発信・情報共有する仕組みを充実させることで、「知り」、「つながり」、「つながった人が参考にする」、「手をとりあって協力する」などの広がりを生みだしていくことが求められています。

(5) 各地区の歴史的経緯や背景に合わせた地区別計画

ハートプランにおける区計画と地区別計画は、「上位計画 - 下位計画」という関係ではありません。 それぞれの営みが連動し支えあう関係となることを目指します。区域で展開される公的サービスや、 地域を限定しない福祉サービスも、対象者の生活の全てを支えられるわけではありません。そのとき に、より小さな生活圏域でのつながりなどが、セーフティーネットの網をきめ細かくすることができ ます。また、その逆も同様であり、地域のつながりだけでは解決できない事柄について、公的サービ ス等につながる仕組みづくりや、情報を持つ住民を増やしていく取組が区域で求められます。

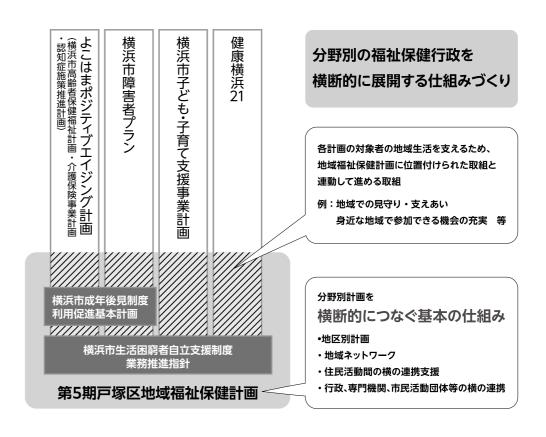
戸塚区内 18 の地区は、それぞれに異なる歴史や背景を積み重ねてきています。また、自治会町内 会活動など、普段あまり "福祉保健活動"とは捉えていない活動についても、実はハートプランの理 念に資するような活動が脈々と展開されています。

ハートプランの策定・推進を、身近な地域の歴史や取組について少し立ち止まって捉え返す機会と していただき、ひいては地域への愛着を醸成する機会にしていただければと思います。

(6) 福祉保健の分野別計画をつなぐ

横浜市では、高齢者、障害者、子ども、健康といった福祉保健の分野ごとに、目指す姿や具体的な取組などをまとめた計画を策定しています。

ハートプランは、"地域"という視点で分野別計画を横断的につなぐことで、子どもから高齢者まで、 年齢や障害の有無、性別や国籍の違いに関わらず、全ての人の地域生活を支えることを目指すものです。



第4期計画の振り返り

(1) 主な取組と成果

〈基本目標1:支えあいと助けあいのあるまち〉

- ○地域内の福祉活動団体・ボランティア団体に限らず、地域のサークル・団体・企業等との連携により、 地域活動を行うことができています。
- 〇民生委員・児童委員の活動、みまもりネットの協力事業者、子育て連絡会、認知症カフェの情報交換等をとおして、地域の助けあいの活動の広がりが見られます。
- ○認知症に関する啓発事業、障害者週間シンポジウムでの当事者からの発信、学校等での福祉教育、 障害者施設など関係機関による横のつながりを生かして、また書店との連携による啓発活動を広げ、 地域の方への啓発を進めています。
- 〇子育てや介護をしている人同士のつながりを通して、課題やニーズに合わせた取組が推進されています。

〈基本目標2:みんながふれあう場のあるまち〉

- 〇高齢者サロン、子育でサロン、地域食堂や子ども食堂など多様な形の地域活動団体の取組が広がっています。
- 〇ボランティア入門講座や地域づくり大学校の開催等により、活動のきっかけを作り、地域活動をより身近に感じてもらうことで活動につなげています。
- ○社会福祉法人施設や地区社協が話し合うことにより、多様な主体が地域課題や個別課題を共有する ことにつながっています。また、区内大学との連携した取組も進み、新たな人材の発掘にもつながっ ています。

〈基本目標3:安全・安心、人にやさしいまち〉

- 〇地域防災拠点訓練、マンション防災の取組 (情報交換会等)、災害時要援護者支援説明会での実技 演習の実施等をとおして、災害時の助けあいの仕組みづくりが進められています。
- 〇日常生活の行動(ランニングやウォーキング、犬の散歩など)とむすびつけ、地域の見守りや防犯 活動が広がりました。
- 〇権利擁護に関する講座、こどもの権利に関する広報や研修の開催、エンディングノートの配布を通 して、一人ひとりの権利が守られ、自己決定するという環境づくりが進められています。
- ○食品配布会や区内イベント等で幅広く、生活困窮者支援の制度や相談先の周知等を進めることができました。また、区内高校との連携を深め、福祉制度の周知及び新たな担い手として活動の一端を協働し、様々な関係機関との連携強化を図ることができています。

〈基本目標4:いつまでも元気で健やかに暮らせるまち〉

○働き世代への健康づくりの機会の提供、大学との連携した取組の実施、子育て世代へ公園遊びの機会をつくる等、様々な世代に向けた取組が行われ、健康づくりの機会が広がりました。

- ○介護予防ボランティア養成講座の開催や、保健活動推進員・青少年指導員・スポーツ推進委員・食 生活等改善推進員(ヘルスメイト)等の活動を通して、地域での健康づくり活動が広がっています。
- 〇在宅医療相談室や在宅療養連絡会との連携、医療機関同士の横のつながりの強化等、医療・保健・ 福祉の連携が進められています。

(2) 第5期計画への課題

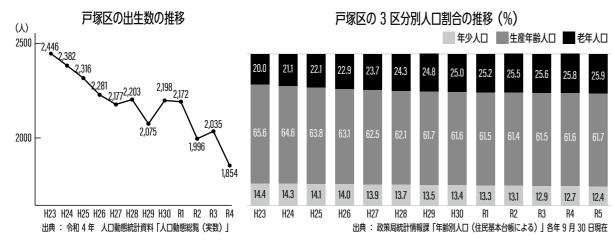
- ・「支援する側-支援を受ける側」ではなく、「お互いさま」の関係づくり
- ・多様性 (個性) について、関係者だけでなくより多くの人に伝えていく必要
- ·様々な背景や価値観を持つ人同士が、お互いのことを分かり合えるような取組
- ・**ヤングケアラー、不登校・ひきこもり(8050 問題)、ごみ屋敷**といった事象への対応
- ・支援を必要としている人へ、**必要な支援が届く仕組み**づくり
- ·子どもが安心して遊べる・過ごせる公園・場の存在
- ・障害のある方の孤立、周囲からの理解、関わり方がわからない
- ・学齢期の土日の居場所、教育格差、いじめ、発達障害への理解
- ・情報が届かない、つなぎ先がわからない、橋渡しができない
- · **学校**との連携
- ・**企業**との連携
- ・当事者の方に届いているのか。
- ・支援につながっていない人や子どもの声が聴けていない。
- ・地域活動に参加したい外国人が受け入れられるために、受け入れ側や支援者の理解や配慮が必要
- ・切れ目のない支援につながる当事者への情報提供や関係機関の連携
- ・**継続的な場づくり**のための人材確保
- ·災害時要援護者が発災時に取り残されないよう、日ごろのつながりづくり
- ・さまざまな複合的課題を抱えた方への支援に関係機関の連携強化が必要
- ・昼間に大人が地域にいない

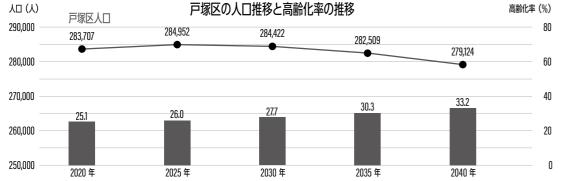
42 第4期計画の振り返り 43

統計データから見た戸塚区

■ 人口の推移と将来人口 ■

近年は、年少人口が年々減少し、一方で老年人口は増加しています。平成25年と令和5年を比較すると、老年人口の割合は10年間で約1.2倍になっています。



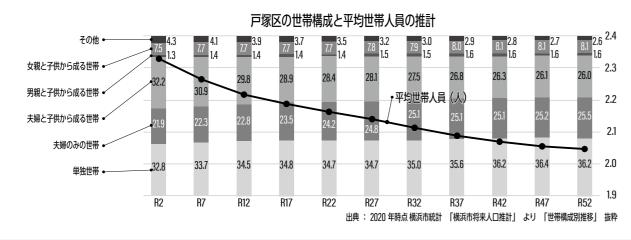


出典 : 2020 年時点「横浜市将来人口推計」「行政区分の男女別 · 各歳 · 年齢 3 区分 · 年齢 4 区分 · 年齢 5 歳階級別人口」

上記折れ線グラフのとおり、2020年時点の人口推計では、2025年をピークとして人口は減少に向かう見込みでしたが、実際の人口推移をみると、2021年をピークとしてすでに人口は減少傾向に向かっています。

■ 世帯数 ■

世帯数が増加している一方、世帯規模は縮小化しています。従来は家族で行っていた子育てや介護 は、公的なサービスだけでなく、地域全体で支えていく必要性が高まっています。



■ 要介護認定数 ■

高齢者人口の増加に伴い、要介護・要支援認 定者数も増加しています。

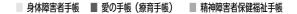
高齢者を支える仕組みづくりに加えて、健康 づくりや介護予防の取組を進めていく必要があ ります。

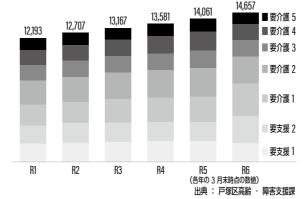
■ 障害者手帳所持数 ■

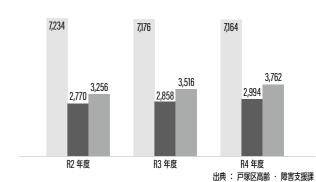
障害のある方の手帳は、障害の種類によって 身体・知的・精神の3種類に分かれています。

知的障害の手帳(愛の手帳)・精神障害者保健 福祉手帳の所持者が増加しています。

障害者が安心して暮らせる地域づくりが必要 です。

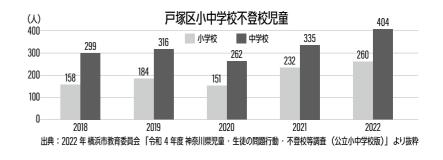






■ 不登校数 ■

小中学校の「不登校」の数値は、年度間に30日以上登校しなかった児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的理由」、「新型コロナウイルスの感染回避」による者を除く。)を計上しています。



※グラフ内の年号(和・西暦)は出典元のデータに合わせて表記しています。

44 統計データから見た戸塚区 45

r
笠に切しつかり しづこう
第5期とつかハートプラン
「区計画」素案の意見募集
第5期とつかハートプラン「区計画」素案に
あなたの意見をきかせて下さい。
みなさまの
(例) (例) (ご意見・ご提案を
「こんなことをやっているよ」 お待ちしています。
「これならできるかも」
該当項目に○をつけてください
全体像・目指すまちの姿(1・2・3・4・5・6)・その他
○ 差し支えなければ、回答された方について教えてください。

町)・ 区外

 【年齢】 ()代

 【居住地等】 区内 (

ご協力ありがとうございました。

【在住在勤等の別】 在住・在勤・在学・その他

意 見 募

第5期とつかハートプランの素案ができまし たので、区民の皆様のご意見を募集します。

■ 意見募集期間

令和7年5月20日(火)から 令和7年6月20日(金)まで

ご意見は ①Eメール、②郵送、③FAX、④窓口持参、⑤電子申請 のいずれかの方法でお寄せください。

Eメール to-tihukuho@city.yokohama.lg.jp (1)

〒244-0003 戸塚区戸塚町16-17 (2) 郵送 横浜市戸塚区役所 福祉保健課 事業企画担当

(3) FAX FAX: 045-865-3963

窓口持参 (4)戸塚区役所6階福祉保健課61番窓口まで

電子申請 **(5)** システム



※ いただいたご意見の概要は、後日ホームページで公表します。 ※ 個別の回答はいたしませんのでご了承ください。

・キリトリ線 🔀

便はが

2 4 4 8 7 9 0

料金受取人払郵便 塚 認 4039

差出有効期間 令和8年 3月31日まで 〈切手不要〉



第5期 とつかハートプラン (戸塚区地域福祉保健計画) 計画期間:令和8年度~令和12年度

誰もが安心して心豊かに暮らすことの できる地域社会の実現を目指して



■ 素案配布・閲覧場所

- 戸塚区役所6階福祉保健課61番窓口
- ・ 戸塚区社会福祉協議会(フレンズ戸塚) 1階

戸塚区ホームページ

・ 地域ケアプラザ

・ 地区センター

・コミュニティハウス

· 戸塚図書館

・ 戸塚スポーツセンター

・ 戸塚区地域子育て支援拠点とっとの芽

・ とつか区民活動センター

戸塚区基幹相談支援センター (東戸塚地域活動ホーム ひかり)

■ 問い合わせ先

横浜市戸塚区役所 福祉保健課 事業企画担当

住所: 戸塚区戸塚町16-17 電話: 045-866-8424 FAX: 045-865-3963

Eメール: to-tihukuho@city.yokohama.lg.jp

第5期とつかハートプラン素案

とつかハートプラン 素案

の詳細は区役所のHPで

閲覧できます。

社会福祉法人 横浜市戸塚区社会福祉協議会

住所: 戸塚区戸塚町167-25 電話: 045-866-8434 FAX: 045-862-5890

Eメール: info@totsukashakyo.com

